

新評論

2025
11
No.352

発行所 © 新評論 2025年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税込

ユダヤ教、カトリック、プロテスタント、新興宗教、イスラム…
多様な信仰が入り交じる実態を繙く異色の中南米・カリブ社会史

一神教のラテンアメリカ

ユダヤ教・キリスト教・イスラム教をめぐって

よつのやひろこ
乗 浩子

◆ジャンル：ラテンアメリカ・カリブ宗教社会史

本書書影



「カトリック大陸」として知られるラテンアメリカ・カリブ地域。しかし実際には、ユダヤ教、カトリック、プロテスタント、ネオカリスマ系新興宗教、先住民神学、イスラム等いくつもの「一神教」が入り交じり、複雑なモザイクを織りなす宗教多元社会である。本書はその知られざる歴史的展開を、当地域近現代史の専門家が三つの「一神教」を軸としてつまびらかにする異色の宗教社会史である。

【第一部 ユダヤ教徒の過去と現代】では、一五世紀末のディアスポラを機にイベリア半島のユダヤ人が徐々に「新大陸」に到来し始め、一九世紀の独立期には一定規模のコミュニティを形成、第二次大戦後の「イスラエル建国」にラ米諸国が多大な貢献をなした経緯などが確認される。戦後から冷戦期にかけてイスラエルとの間で築かれた政治的・軍事的関係は、いまに続くイスラエルの膨張政策を歴史理論的・批判的に考察する上でも重要な示唆に富む。

続く【第二部 キリスト教世界の新たな展開】では、第二次大戦後に始まる著しい退潮（信徒の減少）に歯止めをかけるべく、当地のカトリック勢力が打ち出した「解放の神学」と先住民運動との

関わり、バチカンの主導で軍政下ブラジルの人権侵害の全貌が究明されていくプロセス、二〇世紀末以降急成長を遂げたペンテコステ派など「第三教会勢力」の実態が明らかにされる。

最後の【第三部 イスラムの台頭】では、一二世紀以来数次の移住の波により中南米・カリブに定着したムスリム移民の歴史と現在が概観される。同化圧力の強いカトリック大国アルゼンチンで一九八九年、シリア出身のカルロス・メネムが大統領に就任した事実、当地におけるイスラムの浸透を如実に物語る。中南米・カリブ地域の宗教多元性は、信仰や習慣の違いを口実に領土拡張と侵略戦争をくりかえすことの愚かさを改めて悟らせてくれるはずである。

ISBN978-4-7918-1290-5

A5並製 二五六頁 三五二〇円

（編集部）

11月上旬刊

【全面改訂版】

ラテンアメリカ 政治と社会

松下洋・乗浩子 編

三五二〇円

好評刊

【改訂新版】

概説ラテンアメリカ史

国本伊代

三三〇〇円

著者 中国大連市生まれ。元帝京大学教授。専攻はラテンアメリカ近現代史、国際関係史。著書『宗教と政治変動——ラテンアメリカのカトリック教会を中心に』（有信堂高文社）、『教皇フランシスコ』（平凡社新書）、共編著『【全面改訂版】ラテンアメリカ 政治と社会』（新評論）など。



著者近影（撮影：工藤由夏）

自宅で最期まで「生ききる」ことを諦めない人たちをどう支えるか。在宅看護の実情とやりがいを6人の現役が語る

訪問看護師ものがたり

ご在宅の力

嶋守さやか

◆ジャンル：ケア／看護

訪問看護師に「よい訪問看護とは何か」とたずねたら、何が、どのように語られるのでしょうか。六人の訪問看護師へのインタビューをもとにした本書は、「人として生ききる」ことを最期まで諦めない人々に「沿う」ことで生まれた訪問看護師の語りです。テーマはズバリ、「よい訪問看護とは何か」。この問いに答えるのは、東京山谷地域やその近郊の訪問看護ステーションに長年勤める管理者や、著者が住む地域にある看護大学の教授、訪問看護師の方々です。

本書に登場する看護師たちは「訪問看護こそが看護の原点」と語りながらも、「よい訪問看護とは何か」を日々問い続けています。家で最期まで「生ききる」人に向き合う訪問看護師たちの姿勢は、「利他」のありようそのものです。「利他」を訪問看護から照らしてみれば、生ききろうとするその人が持っている力を引き出し、生きることの主体性を喚起する実践が見えてきます。病を抱えながらも生ききろうとする人たちと人として対話をすることで、感覚と経験に照ら

してそのつど判断をくりかえしながら、視覚的、聴覚的、触覚的にあらわれる「いのち」を専門的に看護する。訪問看護師も「生ききる」人も一人ひとり違うからこそ、「よい訪問看護」についての「ものがたり」は、よい訪問看護を志す訪問看護師の「違い」に依拠していくつも紡がれていくのです。

近年、訪問看護では「やりがいや満足感を感じられることが職務定着の要因となっている」とする研究が蓄積されつつあります。本書で語られる六人六様の「ものがたり」を読むことで、訪問看護師という仕事と心意気のリアリティを感じとっていただけることを心から願っています。（しまもり・さやか）

ISBN978-4-7948-1301-5

11月初旬刊

四六並製 予二一〇頁 予一九八〇円

好評刊

孤独死の看取り

嶋守さやか

二二〇〇円

虐待被害者という勿れ

〔虐待サバイバーという生き方〕

嶋守さやか 著／田中ハル 写真 二二〇〇円

著者 桜花学園大学教育保育学部教授。川崎生まれ。金城学院大学大学院文学研究科博士後期課程修了、社会学博士。著書『孤独死の看取り』『寿ぐひと 原発、住民運動、死の語り』『虐待被害者という勿れ』、共著『比較福祉社会学の展開 ケアとジェンダーの視点から』。



著者近影

生徒も教師も算数・数学が好きになる、「答えのない教室」の
理論的・実践的ルーツがここに！BTCの全貌がわかる決定版

「考える教室」をつくる

授業はここまで変えられる

ピーター・リリヤドール／梅木卓也 監訳／有澤和歌子 監修

◆ジャンル：教育（算数・数学）

本書は二〇二三年刊「答えのない教室」のベースとなった本の邦訳である。著者は世界的な数学教育学者で、本書（原題）Building Thinking Classrooms in

Mathematics（二〇二一年刊）はその代表作であり、一読すれば「答えのない、考える教室づくり」（以下BTCと略）のすべてがわかるようになっていく。監訳者の梅木氏は六年以上にわたり、BTCを用いて年四〇〇回に及ぶ授業を実践するかたわら、開発者である著者のもとで算数・数学教育の研究を重ね、修士論文も書いており、BTCの国内最良の紹介者といえる。

日本での授業実践の様子は続編「答えのない教室パート2」（池田吉久著、二〇二四年刊）でも紹介されているが、その特徴は際立っている。まずトランプを使って教室を三人ずつのグループに分ける（BTCでは対話を通じて考えるユニットとして三人が最適とされる）。次に机も椅子も片づけて広いスペースを作る。グループごとにホワイトボード一台とマーカーペン一本が支給される。生徒たちはボードの前に立ったまま思考をめぐらし、議論を交わす。そのあいだ教師は教室中を動き回って生徒たちの質問に答えたり、適宜ヒントを出したりす

る。その光景は通常の授業とはかけ離れている。しかしそれがいかに有効かは、生徒たちの生き生きとした表情からおのずと明らかである。

本書では、著者が一五年以上にわたる研究成果（四〇〇以上の教室、数千人の生徒へのインタビューなど）に基づいてこのメソッドを開発した経緯も語られる。つまり単なる実用書ではなく、確固たる裏づけのもとに「考える教室づくり」の有効性が示されているのである。流山市立おおぐろの森中学校校長・前川秀幸氏は「答えのない教室」を、「にぎやかだけれどさくさくない授業」と評した。その背景を含めた手法の全貌を、ぜひ日本の教育関係者のみなさんにも知ってもらい、生徒も教師も楽しめる授業づくりに役立てていただきたい。

（編集部）

ISBN978-4-7918-1302-2

11月中旬刊

A5並製 予三九二頁 予四九五〇円

好評刊 答えのない教室

「3人で「考える」算数・数学の授業」
梅木卓也・有澤和歌子 二四二〇円

答えのない教室 パート2

「流山市立おおぐろの森中学校での教育実践」
池田吉久 二四二〇円

著者 Peter LILJEDAHN 1967年スウェーデン生まれ。サイモン・フレーザー大学（カナダ）教授。専門は数学教育学。博士。カナダ数学教育研究会（CMESG）現会長。大学で教鞭を執るかたわら、「考える教室づくり」をテーマに世界中で講演を行っている。



本書より、森に住む動物たち
を苦しめる人間由来のゴミを
見つけて拾い集めるムツレ

生物種の激減、森林破壊、気候危機…地球の未来を憂う子ども
や若者とともに考え行動するための最良のエコアクション絵本

森のムツレと悲しむ小鳥

カタリーナ・オルデンボーイ(文)／ラーシュ・ベルステーン(絵)
高見幸子・光橋 翠 訳

◆ジャンル：環境教育絵本

「二千年に四万」。これは地球上から消えていく生物種の数です。そして、その原因を作っているのは私たち人間です。いま私たちは六度目の大量絶滅期に突入したといわれています。

この危機的状況のなかで、私たちはどれほど自然環境について話しているのでしょうか。特に子どもに対しては、「大人が対処すべき問題だから」という理由で話題にするのを避けていないでしょうか。けれど現代の子どもたちは、猛暑と豪雨、酷寒と豪雪を日常的に経験しており、幼い頃からメディアや大人の会話を通じて環境・気候危機の脅威にさらされています。現に世界中で多くの子どもや若者が「エコ不安」を抱いていることが明らかになっており、それを理由に子どもを産まない選択をする若者も出てきています。

環境先進国スウェーデンでは、未来の担い手である子どもを環境問題の解決に取り組むアクターととらえてきました。環境教育も幼児期から始めるのが常識で、その代表格が一九五〇年代に開発された「森のムツレ教室」です。「ムツレ」と呼ばれる妖精が登場し、子どもの興味に合わせて生態系のしくみや、人間が自然の一部であることをわかりやすく伝えるプログラムです。常に自然や動物

の立場に立って行動するムツレは、スウェーデンの子どもたちのヒーローです。地球環境の急激な悪化を背景に、このムツレを主人公とした新しい環境教育絵本がスウェーデンで出版され、フィンランド語版に続いて日本語版が刊行されることになりました。かわい動物たちがたくさん登場し、すぐ始められる行動のヒントも盛り沢山、子どもにも大人にも勇気と希望を与えてくれるすばらしい内容です。環境問題について子どもと話すきっかけを求めている保育・教育関係者の方々、エコ不安を抱えるお子さんを励ましたい保護者の方々に心からお勧めします。

(みつはし・みどり サステナブル・アカデミー・ジャパン 共同代表)

ISBN 978-4-7948-1300-8 11月上旬刊

B5変型オールカラー 予三二頁

予二二〇〇円

好評刊

スウェーデンにおける野外保育のすべて
「森のムツレ教室」を取り入れた保育実践
E・エングコード／高見幸子・光橋 翠 訳
二六四〇円

幼児のための環境教育

「スウェーデンからの贈りもの「森のムツレ教室」」
岡部 翠 編
二二〇〇円

作者 Katarina OLDENBURG スウェーデン最大手出版社の一つエグモント社の童話部門編集責任者。『長靴下のピッピ』『バムセ』などを担当。Lars BALLSTEN スウェーデンの漫画家。1977年から国民的アニメ・漫画『バムセ』のイラストを担当。

増補2版 現代社会用語集

入江公康

世界／社会への解像度を上げ、明日に備えたい若者のバイブル、「戦争」など重要項目を加えた最新版！
四六変並製 二四〇頁 一八七〇円



エコロジー階級の登場についての覚書

フルーノ・ラトゥール・ニコライ・シムルツ／川村久美子訳・解説

この新しい階級概念は、私たち一人ひとりの明日の姿を描いている。人間を大地に近づき直す大なる反転。
四六上製 二〇〇頁 予二四二〇円



七十二候の保育物語

宮武貴子・光橋翠編

「バイオニアキッズが拓く持続可能な未来」「子育て」は自然とともに！野外活動を基本とする保育実践。
四六並製 三三六頁 二七五〇円



ファシリテーション型生徒指導

山中信幸

「対話が生みだす学びの共同体」「主体的・対話的で深い学び」を実現するための支援・促進型指導を詳説。
四六並製 二六八頁 二四二〇円



マルグリット・デュラス その愛の行方

佐藤浩子

失われゆく過去、内なる闇、狂おしい愛。没後30年を迎える世界的作家の創作の源泉に迫る本格文学研究。
四六並製 三三〇頁＋図四頁 三〇八〇円



ちよつと自慢できる 京都の話

勝又郁子

「平安京創生館」で知る都 一二〇〇年の古都に平安京の姿を追いかめ、その魅力に移住者目線で綴る。
四六並製 二四四頁＋図四頁 二四二〇円



地方財政調整制度史

中村稔彦

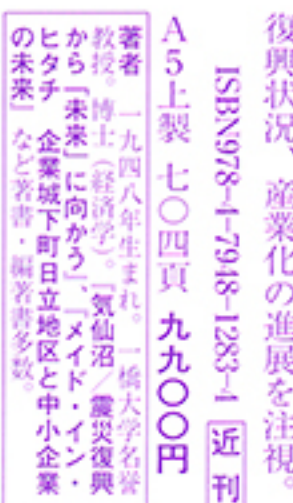
〔総額決定方法と配分方法〕これまでで解明されていない各制度内容の詳細や運営実態の全容解明に迫る！
A5上製 四〇四頁 六三八〇円



福島県浪江町 原発被災を超えて新たな「まち」をつくる

関満博

震災14年、多重・複合災害により苦難を強いられ続ける住民の思いは今どこにあるのか。浪江町の歴史と現在を受け止めつつ、背景、復興状況、産業化の進展を注視。
ISBN978-4-7948-1283-1 近刊
A5上製 七〇四頁 九九〇〇円



鈴木賢志 『ラーゴムが描く社会——スウェーデンの「ちようどよい」国づくり』

個の確立と社会への信頼

■評者 櫻川昌哉 (経済学者・慶応大学名誉教授)

スウェーデンは、高福祉、高負担の国として知られている。手厚い社会保障サービスを維持するために、国民は高い税金を払っている。消費税率は最大で25%に達する。国民の不満はそれほど大きくなく、むしろ国家に対する信頼は厚い。

本書は「ラーゴム」という彼らの気質を表す言葉を手がかりに、消費税率10%で不満いっぱい日本人にとっては信じがたいこの「謎」について考える。

ラーゴムとは「中庸」とか「ちようどよい」という意味であり、バイキングの酒の回し飲みの逸話によれば、他人が飲む

量を考えて、ほどほどに、自分の取り分を決めることをよしとする。厳しい自然と封建制度の不在が知恵を出し合って助け合う文化を育んだ。

こういえば、協力的なイメージを持ちがちであるが、だからといって、周囲に配慮して自分を抑えることはしない。個人主義が強く、はっきりと自己主張をする。子供の頃から、自分の意見や考えをきちんと表現できるように教育される。

個人主義の尊重は、労働者と企業の関係にも表れている。企業の業績に差が出ても、悪いのは経営者のせいで、労働者には他企業と同一の賃金を支払う

『読売新聞』 2025年8月17日

べきだと考える。むしろ経営者への規律が働いて、経済成長にプラスだからよしとする。イケアやH&M、ボルボなど成功している大企業も数多い。

ワークライフバランスにも個人主義が反映される。家族と一緒に過ごす時間を大事にする。一方で、勤勉で労働生産性は高い。働くときは働き、休むときは休む。

個人と社会の関係が日本よりうまくいっている。個の確立の上に信頼できる社会をつくることに成功しているようだ。日本では、社会とは別に「世間」という魔物が存在する。このやっかいな世間とうまくや

つていくために、自分を抑えながら窮屈に生きるべきだという規範が世を支配する。そのせいなのか、我々は信頼できる社会というものをたない。同じように他者と協力することを重視する社会でありながら、どうしてこうも違うのだろう。深く考えさせられた。

ラーゴムが描く社会

鈴木賢志

「スウェーデンの「ちようどよい」国づくり」何ごとにつけ「ほどほど」をよしとする哲学の奥深さに学ぶ。四六並製 二三四頁 二四二〇円

『読売新聞』書評
ISBN978-4-7948-1294-0



本を売る

また、会う日まで

「人文書の仕入れ担当の方、いらっしゃいますか」まだ寒い冬のある日。お客様の問いかけがひと段落し、レジから売場に戻ろうとしていたタイミングでその声をかけられた。私が担当だと名乗る。版元の営業さんにしては少し若い印象だ。

「著者なんです」

なんと、人文書院から編著『批評の歩き方』（松田樹氏との共編）を出されたばかりの日本文学研究者・赤井浩太さんだった。

「あの赤井さんですか！」私自身、ファックスで新刊案内をもらった時から気になっていた本だったので、つい声も大きくなる。向こうも私の勢いに驚いたことだろう。「先生のご本、売場に平積みしております！」十年ぐらい前、同じようなことがあって、鼻息荒くそう伝えたら、著者である若い社会学者にあらずさりされたことを思い出した。

関西を拠点に活動されている

赤井さん。私用で東京に寄った道すがら、書店に足を運んで自ら新刊のPRをされている由だった。

「もしお時間あるようでしたら、ポップを書いていただけませんか？」私の厚かましいお願いにも、気さくに応えてくださった。すぐにバックヤードへご案内する。「浅田彰の『投函通信』に……永江朗の『批評の事情』が……佐々木敦の『ニッポンの思想』も……」絶好の機会とばかり立て続けに問いかける私にバシバシ応えながら、筆を走らせる赤井さん。

「日本の思想を担ったのは批評家である。本書を読んで『知ったか』せよ！」書きあがったポップを有り難く受け取る。新著の読み込みが足りず、深い話ができなかったと悔やみつ、最後に握手をしてもらって別れる。

次の五年・十年、私が人文書売場に立ち続けていられたら、また赤井さんにお会いできる機会があると信じている。

ジュンク堂書店吉祥寺店

梅田昌伸

本誌表示価格はすべて税込です。

◎書評 ◎紹介 ◎関連記事

書評日誌(4・7~6・28)

- 4・7 ④週刊大衆『「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?』（著者インタビュー）
- 4・17 ④たんでいが(Kenichi Kurima YouTube)『離島の光と影』（著者出演）
- 4・25 ④ふえみん『山谷をめぐる旅』
- 4 月 ④中学一年生におすすめの本（関西大学北陽高等学校・中学校図書室）『ヴィンデビー・パズル』
- ④2025年版クレヨンハウスブッククラブ「絵本の本棚」カタログ掲載『ギヴァー 記憶を注ぐ者』
- 5・14 ④房日新聞『答えのない教室』『日本のアタリマエを変える学校たち』（著者・有澤和歌子氏談）
- 5・22 ④新文化『大作物語』トーク

イベント（於八王子学園都市センター）取材

5 月 ④クーヨン『ジェンダー平等のまちをつくる』

④クレヨンハウス通信『ジェンダー平等のまちをつくる』

6・28 ④山梨日日新聞『経済学と経済政策』

「クーヨン」他紹介
ISBN978-4-7948-1282-7

ジェンダー平等のまちをつくる
太田美幸 編

「東京都国立市の挑戦」「誰も排除しない社会」をつくるために取り組んだ施策の舞台裏を描く。

四六並製 二〇八頁 二四二〇円

本を読む

ラーゴムが描く社会

北欧諸国は幸福度が高いことで知られるが、スウェーデンの場合この「ラーゴム」つまり「ちょうどよさの感覚」がその要因の一つなのかもしれないと腑に落ちた。自分としては、豊かで暮らしやすい生活を送れるかどうかは外的条件の他に心の持ちよう次第という面もあると考えてきた。本書のわかりやすい解説でそれが裏づけられた気がして、我が意を得たりと感じつつ、一方で手前味噌な考えに我ながら少し腹が立つたりもしたが、読後感はやかった。そのスウェーデンにおいても「ラーゴム感」の共有が薄れつつあるらしいのがやや気になった。

(本巣市 松浦守仁 65歳)

関門港の女沖仲仕たち

沖仲仕の仕事は男でも音を上げるほどの重労働なのに、女性が灼熱地獄の中、時には命に関わる危険な薬剤の荷を背負い、ただ目の前にある仕事を淡々とこなす様子が胸を打たれた。写真に記録されたその逞しく美しい姿に、女沖仲

仕の心意気を感じずにはいられない。(日光市 団体職員 笹沼賢二 57歳)

戦争を指導した七人の男たち

事実のつながり、歴史の因果関係を理解するのに最良の書だと思えました。人間は必ずしも合理的な判断をしない生き物なのだと、つくづく思い知らされました。(札幌市 会社員 横山 隆 73歳)

好評刊

山谷をめぐる旅

織田 忍

二六四〇円

写真記録

関門港の女沖仲仕たち

(近代北九州の二風景)

林 えいだい

二二〇〇円

戦争を指導した七人の男たち

(並行する歴史)

マルク・フェロー／小野 潮 訳

六〇五〇円

「NHKから国民を守る党」

とは何だったのか?

選挙ウォッチャー ちだい

一六五〇円

編集部から

スウェーデンでは子どもも環境破壊抑止の一翼を担うアクターとみなし、幼児期から啓蒙的なプログラムに参加するのが当たり前です。そのスウェーデン発、最良のエコアクション絵本『森のムツレと悲しむ小鳥』が日本上陸! グレタは決して特別な存在じゃない、誰もが今日から地球を救う英雄になれるし、ならなければいけない。自然が分解できないものを捨てない、落ちていたら拾って持ち帰る、そういう一歩から大きなうねりが生まれる——年齢を問わずエコ不安に苦しむ現代人をそう励ましてくれる、希望に満ちた物語です。訳・解説は好評刊『スウェーデンにおける野外保育のすべて』の訳者で、北環境教育の専門家であるお二人が担当。ご家庭や園・教室で子どもたちと環境について語りあい、行動に踏み出すための最良の教材としてご利用ください。

営業部から

▼直近3ヶ月(2025年6月~8月)弊社の書籍売上ベスト15をご紹介します。

- ①経済学と経済政策
- ②ラーゴムが描く社会
- ③アイルランドから東北へ
- ④なんで学校は変なの?
- ⑤感情と社会性を育む学び(SEL)
- ⑥たった一つを変えるだけ
- ⑦増補2版 現代社会用語集
- ⑧比較福祉社会学の展開
- ⑨「NHKから国民を守る党」
とは何だったのか?
- ⑩答えのない教室 パート2
- ⑪大学での学びをハックする
- ⑫世界一やさしい
推薦・総合型選抜の授業
- ⑬ジェンダー平等のまちをつくる
- ⑭SELを成功に導くための
五つの要素
- ⑮ちょっと我慢できる京都の話

SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料! 各種特典あり! お申し込みを!

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。
入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。
ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メールまたはハガキにてお名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。